

信 頼 の 主 治 医

名医30

私の町の頼れるドクター





高い専門性かつきめ細かい医療を実践する青山院長。



胃・大腸内視鏡、IBD、ピロリに特化 五万件の実績をもつ内視鏡のエキスパート

青山内科クリニック

院長 青山 伸郎

病気の早期発見・早期治療が、健康維持のために私達がとるべき最も大切な要諦と心得るべきだが、神戸市中央区にある青山内科クリニックは、胃・大腸内視鏡、IBD（炎症性腸疾患）、ピロリに特化したクリニックとして2007年5月に開院。青山伸郎院長は、神戸大学医学部を卒業、同大学医学部附属病院で多くの臨床経験を積むなど豊富なキャリアを積み、これまで培った経験・知識の集大成として青山内科クリニックを誕生させた。青山院長自身、医師として開院前までに5万件（上部3万3千件、下部1万5千件、胆膵系2千件）にもものぼる内視鏡検査を行ってきた経歴を持つ、文字通りの内視鏡のエキスパートであるが、開院わずか2年で5000件を超える内視鏡検査数（上部2300

件、下部2700件)を誇り、また200名を超える潰瘍性大腸炎、700件を超えるピロリ除菌治療と、ゆうに中規模病院に匹敵する内容を一人で対処している。また休診日の木曜日に複数の院外施設で試行しているESD(切開剥離)は開院後2年で100件を超えており最先端の内視鏡治療技術のブラッシュアップも堅持している。

独立開業で医療の最前線へ復帰

患者本位のきめ細かな医療を実践

「勤務医時代、例えば山のような要望書、会議、研究会、臨床試験など、時として必ずしも必要のない事に時間を割かれる事が多かった。加えて医師としてのキャリアを積み上げた結果、気がつけば管理職となった上、04年8月からの神戸大学医学部組織改編の経緯もあり、現場での指揮系統を放棄する立場となってしまい、臨床現場から遠ざかってしまった事が独立開業を決心したきっかけでした」と語る青山院長は、薬学系の教授職、基幹病院の院長/副院長のポジションを敢えて選択せず現場復帰を熱望した事からクリニック開院を決意したという訳だ。

「クリニックでは全ての内視鏡検査を私自らが行い、大きな組織では実現出来ない患者様本位のきめ細かな医療の実践を心がけています」青山院長がクリニックコンセプトの一つに掲げているのが、患者の要望・メリットを最優先させた医療だ。

「内視鏡検査は、何度も病院に通わなければならず、大変なイメージをお持ちの方がいますが、クリニックでは、例えば大腸内視鏡検査を行なう場合、下剤の事前送付、検査結果の通知、薬の長期投与などにより、検査日以外は極力来なくてもいい様にしています。また検査で来られた患者様に対しても、血液検査の結果を当日に出せるようにし、経過の動向などを、電話やメールでフォローするといった対応も欠かせません」と来院回数を減らす為の細やかなサービスを実践させる。

「検査でポリープが見つければ、その場で切除するなど、1回の検査で診断から治療まで全て完結させることも徹底しています」と青山院長は語る。

患者本位の医療をあらゆる場面において、どこまでもストイックに突き詰めていく姿勢は、他の追随を許さないきめ細やかさだ。

優れた医療技術と最新鋭の設備機器

群を抜く卓越した、大腸内視鏡検査からの治療

大腸内視鏡検査は、術者の腕が大きくものをいう。長年の経験と高度な技術を持つ医師でないと質の高い医療を提供することが出来ない領域でもある。

青山内科クリニックには、過去に痛みや癒着などが原因で大腸内視鏡検査が不成功に終わった難度の高い患者も多く訪れる。

その中で大腸内視鏡検査は、炭酸ガス送気をいち早く導入し、盲腸到達率99・9%、到達時間は5分以内が55%、5〜10分が35%と、10分以上要する例は1割以下でという卓越した技術水準を誇っている。また、1秒たりとも苦痛を与えないよう鎮静剤、鎮痛剤投与もきめ細かく準備している。

「卓越した技術でも鎮静剤なしで全ての内視鏡検査を薬に行うのは限界があり、必要に応じ鎮静剤投与が必要ですが、十分量投与にはリスクマネージメントが必要です。しかしそれを実践している医療機関というのはまだまだ少数です」

青山内科クリニックでは、診察から、検査、治療、アフターケアまでの一貫した医療を提供しつつ、同時に患者に苦痛を与える事なく楽に検査や治療を受けられる。

評判が評判を呼び、口コミ・紹介などで、近隣地域はもちろん遠方からも青山院長の診療を求め、患者がひっきりなしにやってくる。



きめ細かな対処には自主的に判断行動できるスタッフの存在が不可欠。看護師は内田充子を中心に、現在常勤6名、非常勤3名。事務は高橋多久美を中心に常勤5名、非常勤1名。

待ち合いロビーは独創的な情報発信スペース 医師と患者が同じ目線で相対する医院

そんな、多くの患者を惹きつけてやまない青山内科クリニックには、青山院長の優れた診療技術に加え、患者本位に徹した細やかな配慮、こだわりの心地よさが施設・設備にも表われている。

オリンパス社製のNBI、拡大内視鏡など最新機器を導入。プライバシーを配慮した回復室は4部屋準備。大腸の検査を、鎮静剤なしでも苦痛なく受けてもらえる技術はありますが、患者様のご希望に応じ、鎮静状態を3段階から選択して頂きます。回復室はその為のもですが、検査スペースの床面は全てフラットにしているので、十分に鎮静した場合、内視鏡台ごと寝たまままで回復室へ移動することも可能です」

また、回復室とナースステーションが直ぐ近くにある為、患者は安心して休むことができる。

「更衣室やお手洗いは男女別にし、院内全体に穏やかなクラシック音楽をBGMとして流し、少しでも患者様が快適に、リラックスして過ごせるよう努めています。医師と患者様が同じ目線で相対するという意味を込めて、診察室の私の椅子と患者様の座る椅子は全く同じものにしていきます」

さらに広々とした待合室は、患者がゆったりと過ごせるスペースを確保。青山院長は、この待合室を、情報発信スパー



患者にとって理想的なクリニックといえる癒しの空間が広がる。

スとしての意味合いも考えているという。

「十年来、炎症性腸疾患患者でつくる『神戸IBD友の会』に携わってきたこともあり、患者様への情報提供や患者様同士の交流の大切さを実感しました」という経緯から、待ち合いロビーには各種関連冊子などを用意し、専門家による講習や、患者同士の交流会も実施。

「クリニックがビルの5階にあり、窓からは湊川神社の全景が臨め、眺望も抜群です」青山院長はこのクリニックを気軽な集いの場、また憩いの場としても活用してもらいたいという。

信賴のスタッフと共に日々奮闘 患者一人ひとりのQOL向上に尽力

院内の床や受付カウンター、照明などは木調で統一し、エコロジカルな雰囲気を感じている。さらに、ブラインドとソファは暖色を配し、温かさを感じてもらえる演出を凝らしている。

施設、設備のどれをとっても、患者の安心と優しさ、心地よさを感じてもらうための妥協を許さない。細部にまでこだわり抜く青山内科クリニックのホスピタリティーを見て取れ、患者にとってまさに理想的なクリニックといえる癒しの空間が広がっている。

一方で優秀な医師、最新鋭の設備、理想的な施設には、クリニック全体をサポートする立派なスタッフが求められる。

「指示されたことだけを行なうのではなく、自主的に判断行動できるスタッフが揃って初めてきめ細かな対処が可能に

青山内科クリニック

なります。といっても難しい事をするわけではありません。自分が患者様の立場であればどうして欲しいかを、その場でいとわずにご提案するわけですから」

穏やかな表情で語る青山院長は、スタッフに全幅の信頼と愛情を抱く。そんな優秀なスタッフに囲まれているからこそ、自分も頑張れるのだという。

「家族や知人そして自らが受診したいと思える医療を今後も提供していきたい」と語る青山院長は「治療が多岐にわたる機能的疾患などに対しても、的確な内視鏡検査を含めた画像検査をはじめ、多くの治療法を準備し、患者様一人ひとりの生活環境を考慮した医療を迅速・的確に提供していきたい」と、検査・治療に加え、患者のQOL（生活の質）向上を重視した医療活動をも実現していく構えだ。

多忙を極める青山院長だが、テノール、指揮など音楽活動も精力的に行っている。

「芸術と科学という右脳左脳のバランスを取り、精神的なゆとりを持つことが良質な医療を患者様に提供することに繋がります」専門性を維持、むしろ先行させ、かつ大きな組織では実現できない患者本位の医療に徹する新たな開業スタイルは、時代のニーズとして求められる。青山院長はまさに明日の地域医療を拓く名医だ。

青山伸郎（あおやま・のぶお）

1980年神戸大学医学部卒業後、第2内科入局。1998年神戸大学医学部附属病院助教授・光学医療診療部部長として国内外で活動。2007年3月をもって神戸大学を辞職し青山内科クリニック（胃大腸内視鏡/IBDセンター）を開設。院長。日本消化器内視鏡学会評議員・指導医。日本消化器管学会評議員。日本消化器病学会評議員。日本ヘリコバクター学会理事。日本内科学会専門医・指導医。日本医師会認定産業医。西宮市立中央病院医務顧問（内視鏡センター担当）。2002年1月第15回日本消化器内視鏡学会近畿セミナー会長。2006年6月第12回日本ヘリコバクター学会会長（ノーベル賞受賞ピロリ菌発見R. Warren博士招聘）。1997年～2006年炎症性腸疾患患者会神戸IBD友の会指導。内視鏡のライブデモンストラーション（1998シンガポール、2000上海、2002重慶/北京）など精力的に活動。

青山内科クリニック 胃大腸内視鏡/IBDセンター

- 所在地 〒650-0015 神戸市中央区多聞通3-3-9 神戸楠公前ビル5F
TEL 078 (366) 6810 URL <http://www.aoyama-clinic.com>
- 診療内容 内視鏡・炎症性腸疾患・ピロリ菌を中心とした専門領域の最新医療をきめ細かく提供
- 診療時間
 - ・胃内視鏡 9:10 - 12:00 完全予約制 月・金 第4土曜
 - ・午前外来診療 9:30 - 12:00 月・火・水・金 第1、3、5土曜
 - ・大腸内視鏡 12:00 - 17:00 完全予約制 月・火・水・金 第4土曜
 - ・夜間外来診療 17:00 - 19:00 月・水・金
 - ・休日 日・祝日 木曜 第2土曜